

# ねずみくんのチョッキ

2学期が始まりました。みなさん夏休みは楽しく過ごせましたか？私は暑いのが苦手なこともあって、ほとんどお家で過ごしていました。でも、美術展には行きましたよ！それは姫路文学館で開催された『ねずみくんのチョッキ展』。小さい頃読んだことある人も多いかもしれませんね。たっぶりの余白に真っ白な背景、そこにたたずむ小さなねずみくん。お母さんに編んでもらった赤いチョッキを大得意で着ているのがとってもキュートです。「いい チョッキだね ちょっと きせてよ」といろんな動物が着たがって、最後にはゾウさんまで！「すこし きついが にあうかな？」と、ねずみくんの小さいチョッキを無理やり着てみた動物たちの表情や体もコミカルでつい笑ってしまいます。

なかえさんが物語の構成、上野さんが絵を描くというスタイルで200冊以上の著作を刊行。なかでも有名なねずみくんシリーズは、45年間で累計400万部のベストセラーになりました。2019年に上野さんがご逝去された後、もう新しい作品は読めないのかなあ、と思っていたのですが、2020年に『ねずみくんはめいたんてい』、2021年に『ねずみくんのピクピクピクニック』が発売に。なんとなかえさんが全部パソコンで描いたそうです。今までの絵本から、お話に合うイラストを探して、加工して絵をつくっているとのこと。胴体と顔を替えたり、ポーズを変えたり、新しく描いた小物を手に持たせたり、部分部分で合成したり…。これからもまだまだ新しいねずみくんたちに会えると思うとうれしくなります。

今回の展示は、原画やクイズ、アトリエ再現、外国語に翻訳・出版された絵本の展示のほか、写真撮影できるかわいいコーナーもあつたりと盛りだくさんの内容でした。

ねずみくんシリーズだけではなく、上野さんが絵を手がけ、小学校の教科書にも掲載された『ちいちゃんのかげおくり』の原画や、シュルレアリスムの油絵「少女チコ」シリーズの作品も。最後のグッズ売り場まで思いやりとユーモアあふれるかわいい空間でした。

ねずみくんシリーズを読んで絵本を描いてみたいな、と思った人には『絵本の作りかた』がおすすめ。どこから手をつけたいのか、お話はどうやって組み立てるのか、といった基本的なことから最終段階の製本まで、しっかりレクチャー。ねずみくんも絵本を作るお手伝いをしてくれているのがかわいくて心強いです

## なかえよしを + 上野紀子

なかえよしを / 1940年神戸市生まれ。広告会社のデザイナーを経て絵本作家に。

うえののりこ / 1940年埼玉県生まれ。イラストレーターとして活動後、絵本作家に。

2人は日本大学芸術学部で同級生として知り合い、1966年に結婚。

1973年、共作絵本『Elephant Buttons』をアメリカで出版。

主な作品に、「ねずみくんの絵本」シリーズ、『いたずらララちゃん』、

『扉の国のチコ』、『ねこのジョン』ほか。2005年、第28回巖谷小波文芸賞を受賞。